シン学校プロジェクト 検討協議

活動ハンドブック

新たな学校づくりを考えながら、地域のこれからを模索する

一宮市

― 目 次 ―

はじめに ・・・・・・・・・・ 1

第1章　「シン学校プロジェクト」って？ ・・・・・・・・・・ 2

　小中学校の施設、ずいぶん古くなりました ・・・・・・・・・・ 2

　新時代に合うように分野を超えて幅広く検討 ・・・・・・・・・・ 2

　10年間を視野に入れた計画を ・・・・・・・・・・ 3

　シン学校プロジェクト（第1期）にかかるお金 ・・・・・・・・・・ 4

　いくつの学校を更新できるのか ・・・・・・・・・・ 4

　大規模改修と併行して進めます ・・・・・・・・・・ 4

　シン学校プロジェクト（第1期）はいつから ・・・・・・・・・・ 5

　シン学校プロジェクト はじめます ・・・・・・・・・・ 6

　シン学校プロジェクトに参加して、みんなで考えましょう ・・・・・・・・・・ 7

第2章　検討協議会設立とモデル校応募 ・・・・・・・・・・ 8

　地域で検討協議していく流れ ・・・・・・・・・・ 8

　Step1　地域の機運づくり ・・・・・・・・・・ 9

　　（1）みんなで学ぼう ・・・・・・・・・・ 9

　Step2　立ち上げ準備 ・・・・・・・・・・ 10

　　（1）準備会議の開催 ・・・・・・・・・・ 10

　　（2）検討協議会の姿を検討しましょう ・・・・・・・・・・ 11

　Step3　検討協議会の設立 ・・・・・・・・・・ 11

　　（1）組織の立ち上げ・運営 ・・・・・・・・・・ 11

　Step3-①　学校と地域の状況を把握 ・・・・・・・・・・ 12

　Step3-②　課題の発見とありたい姿をイメージ ・・・・・・・・・・ 13

　Step3-③　ギャップを埋めるアイデアの選択 ・・・・・・・・・・ 14

　Step3-④　学校施設のプランを決定 ・・・・・・・・・・ 15

　Step4　合意形成　～モデル校応募～ ・・・・・・・・・・ 16

　　（1）モデル校プラン（方針）のとりまとめ ・・・・・・・・・・ 16

　　（2）モデル校募集に応募 ・・・・・・・・・・ 16

第3章　先進事例紹介 ・・・・・・・・・・ 17

　先進事例①　愛知県瀬戸市立にじの丘学園 ・・・・・・・・・・ 17

　先進事例②　埼玉県志木市立志木小学校 ・・・・・・・・・・ 18

　先進事例③　東京都品川区立第一日野小学校 ・・・・・・・・・・ 19

　先進事例④　京都府京都市立京都御池中学校 ・・・・・・・・・・ 20

はじめに

日本の人口は、第二次ベビーブームといわれる昭和４０年代後半から５０年代初頭に増加のピークを迎え、その後、鈍化して平成１７年にはマイナスに転じました。人口増加期に建設された公共施設の多くは、老朽化が進み、今、更新の時期を迎えています。

文部科学省の令和元年度の「学校基本調査」によると、調査が始まった昭和 23 年度以降、小学校の在学者数は過去最高であった昭和 33 年度から約 53%減、中学校の在学者数は昭和 37 年度から約 56%減となりました。

また、一宮市の「公共施設等総合管理計画」によると、市が所有・管理する全ての公共施設の約 44.3%（延床面積比。令和 3 年 4 月 1 日時点）を学校教育系施設が占めていると示されています。

近年、児童生徒数が減少するなか、学校を統廃合したり、小中一貫校などを設置するなど、新たな学校のあり方を模索する自治体も増えています。

こうした学校再編や統廃合には、住民の皆さんの理解と合意が不可欠です。統廃合で学校がなくなる地区の住民の皆さんは、地域に子育て世代が減っていく等の不安を持ちますし、今までより遠くの学校へ子どもを送り出す保護者の皆さんは、通学時の安全確保などの心配もあります。こうしたメリットとデメリットを調整し、不安を解消していくためには、行政の考えを一方的に押し付けるのではなく、行政と住民の皆さんが共に意見を出し合い、話し合うことが、必要かつ大切なプロセスだと考えています。

シン学校プロジェクトでは、児童生徒数が減少する中で、単に古くなったから学校施設を建て替えるのではなく、新しい時代に合うように、今の通学区域の在り方や他の公共施設との複合化などを、地域の皆さんからご意見等を募集し、地域の皆さんと一緒に学校施設の今後を考えていくことを通して、その先にある今後の地域のあり方を、改めて考える一つのきっかけになれば良いなと思っています。

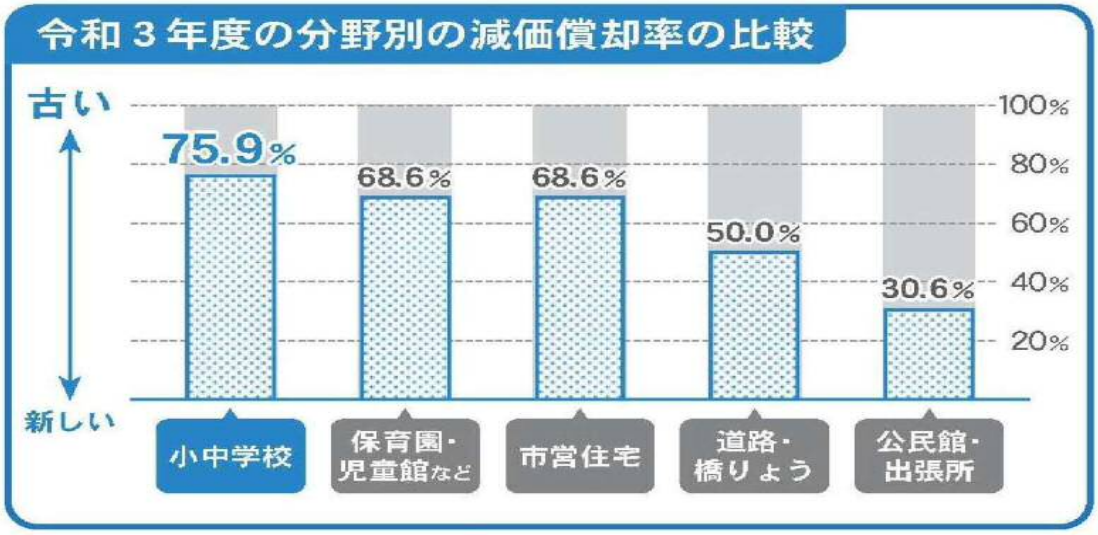
このハンドブックでは、地域の皆さんに取り組んでいただくための手段の一つとして、検討する集まりの設立や活動方法などの一例「たたき台」を示しています。各地域の事情や地域の皆さんのお考えにより、柔軟に形を変え、ご利用いただければ幸いです。

第1章　「シン学校プロジェクト」って？

●小中学校の施設、ずいぶん古くなりました

市立小中学校61校（小学校42校・中学校19校）のうち、令和5年4月現在、建築から60年以上の校舎がある学校は23校もあります。その一方で、平成23年に南部中学校の北舎が建築されて以来、もう12年も新しい校舎の建築はありません。建築物の老朽化の度合いを示す減価償却率でも、分野別で小中学校が一番高くなっており、小中学校の校舎の更新は、待ったなしの課題です。

そこで「シン学校プロジェクト」を立ち上げました。シンをカタカナにしたのは「新」のみならず「進」「真」にかけて、単なる老朽化にともなう改修工事ではない事業として位置付けたからです。

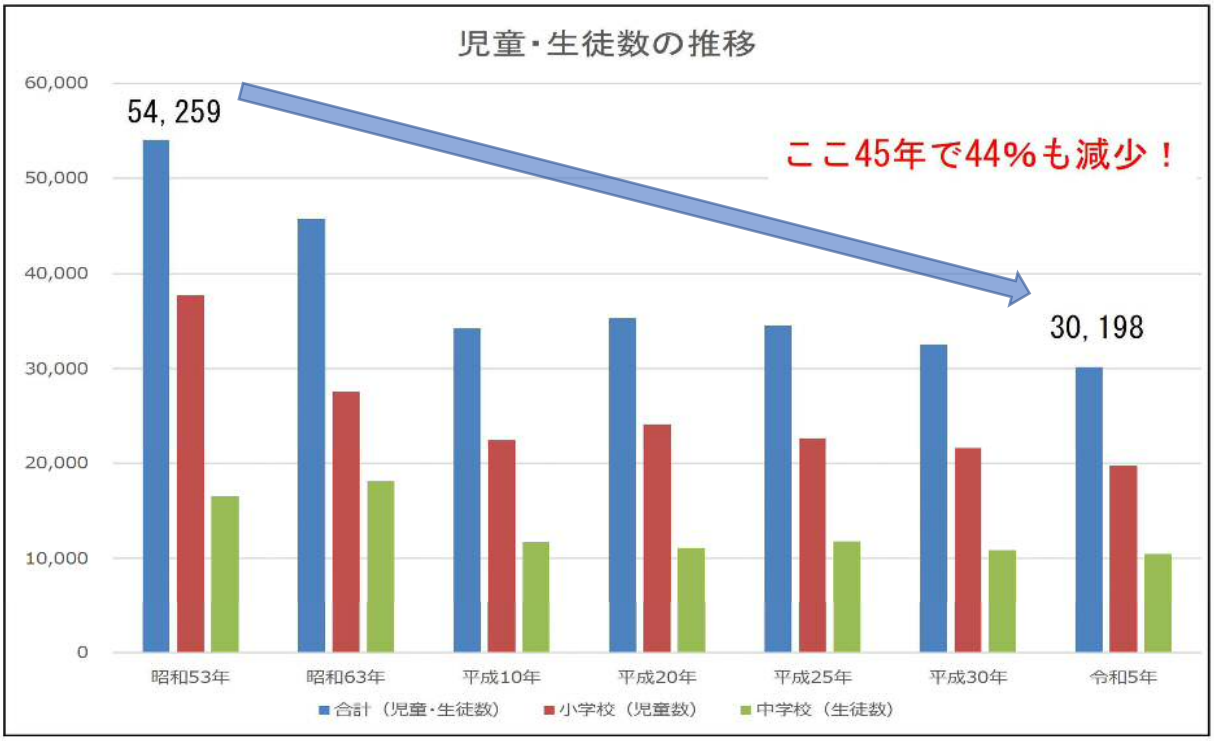


●新しい時代に合うように分野を超えて幅広く検討

とはいえ、今すぐ建設計画を進めても、設計・解体・建築で最低6年はかかりますので、まずは築年数が古い建物のうち、老朽化が進んでいる施設から、建て替えを検討します。

一方、少子化が進み児童生徒数が減少する中で、単に古くなったものを同じように新しく建て替えるべきかというと疑問が残ります。新しい時代に合うように今の通学区域の在り方も含めて検討が必要な地域も出てくるでしょう。さらに進んで教育だけに特化することなく、保育園の合築や、地域に開かれた公民館や体

育館としての機能を学校敷地内に集約していくという考え方もあります。分野を超えた合築には、国の支援が手厚くなる方針（補助率３分の1→２分の1）も出ています。



●10年間を視野に入れた計画を

まずは令和6年からの10年間を「シン学校プロジェクト（第１期）」として進めていきますが、これだけでも150億円以上の費用がかかると見込んでいます。

「シン学校プロジェクト」を進めるにあたって、コロナ禍を乗り越えながら積み立ててきた公共施設整備等基金が80億円ほどあり、これを活用する予定です。しかしこれだけでは足りませんので、市の借金である市債を発行し、さらに、国の補助金や地方交付税などの国の資金を活用していく必要があります。

この取り組みは、未来の一宮市のためになる必要な投資であり、今がそのタイミングだと考えています。

●シン学校プロジェクト（第１期）にかかるお金

❖ 10年間で150億円程度の規模を想定しています。
一つの校舎の建て替えにざっと15億円、
学校全体を更新すると、30億円～50億円必要です。

●いくつの学校を更新できるのか

❖単純に校舎を建て替えるとすると、
１校舎あたり、約１５億円（令和3年の推定価格）
元手　１５０億円　→　１０校舎分

❖他の施設と複合化した校舎とすると、
例えば、４校老朽化した校舎を更新すると、
１５億円×４校舎＝６０億円　→　残り９０億円
複合化を４校、行うとすると
９０億円÷４校舎＝22.5億円/校舎　→　８校舎 程度

●大規模改修と併行して進めます

第1期の10年間で8校舎～10校舎を更新していく計画ですが、小中学校61校を更新するとなれば、このペースでは100年かかってしまいます。

文部科学省の手引書では、適正な維持管理がされた鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は70年～80年程度としています。そこで、建築後50年未満の校舎については、設備ごとの耐用年数、点検や現場調査の結果に基づき、長寿命化をはかり機能・性能の向上を目的とした大規模改修を併行して進めていきます。

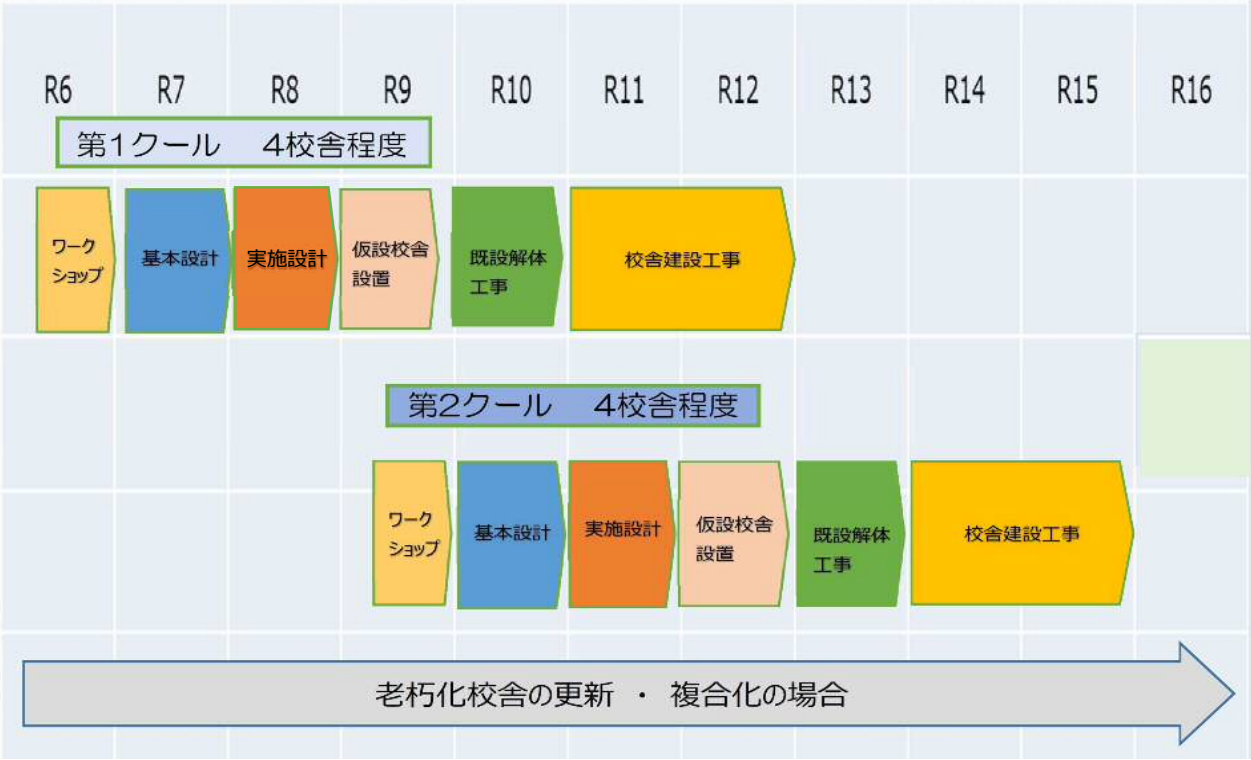
●シン学校プロジェクト（第1期）はいつから

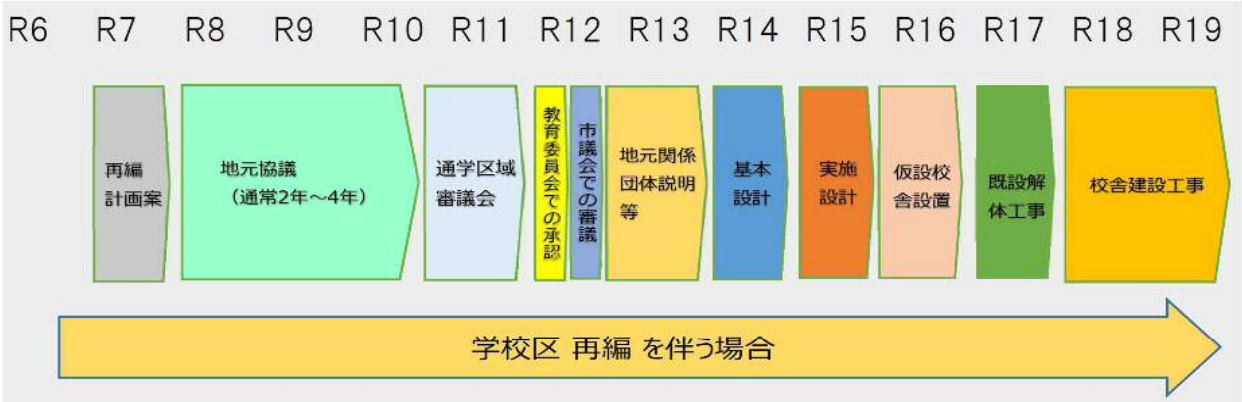
第1期プロジェクトを

2024（令和6）年度から10年程度を視野に２クールで実施します。

▶第１クール　2024（令和6）年度　→　2030（令和12）年度

▶第２クール　2027（令和9）年度　→　2033（令和15）年度





学校区の再編は、地元からの要望を受けて市が再編計画案を作成します。この再編計画案を地元の協議会で十分に検討してから、教育委員会に学校区再編を申請します。再編計画は通学区域審議会で審議され、その結果を受けて教育委員会が承認します。その後、市議会の審議、地元説明などがあるため、老朽化・複合化の場合と比べ事業期間が5年～10年ほど長くなると想定しています。

シン学校プロジェクト　はじめます

① 市が　キックオフミーティングを開催　　（令和5年11月26日）

全国の事例を紹介し、一宮市の学校施設の現状をお伝えします

② 市が　シン学校プロジェクト基本方針を策定します

（令和6年3月）

③ みなさんから　意見・アイデアを募集します

（令和６年４月～）

『学校づくりに向けた地域や関係者の熱意・アイデアなどを考慮してモデル校として選定します。』

④ 市が 設置する「モデル校選定委員会」へ、みなさんの案を詰問し、答申を受け、市が対象校を決定します。

（令和6年後半）

みなさんで「地域のこれから」を検討しましょう！

学校と地域の状況について、情報共有や意見交換の場を作り、モデル校の検討をしませんか。新しい時代に合ったそれぞれの地域づくりをあらためて考えるきっかけになると思います。

第1期でモデル校に選ばれなくても、みなさんから寄せられた意見とアイデアは、今後に引き継がせていただきます。

学校と地域の環境変化を見据えながら、今後も継続した検討をお願いいたします。

●「シン学校プロジェクト」に参加して、みんなで考えましょう

シン学校プロジェクトには、老朽化の状況に応じて建て替えるプランと、地域や関係者の熱意やアイデアなどを考慮して建て替えるモデル校プランがあります。

❖ まずは「どうありたいか」を考えてみてください。

プラン①　老朽化した校舎を建て替えられればいい（原則、減築）

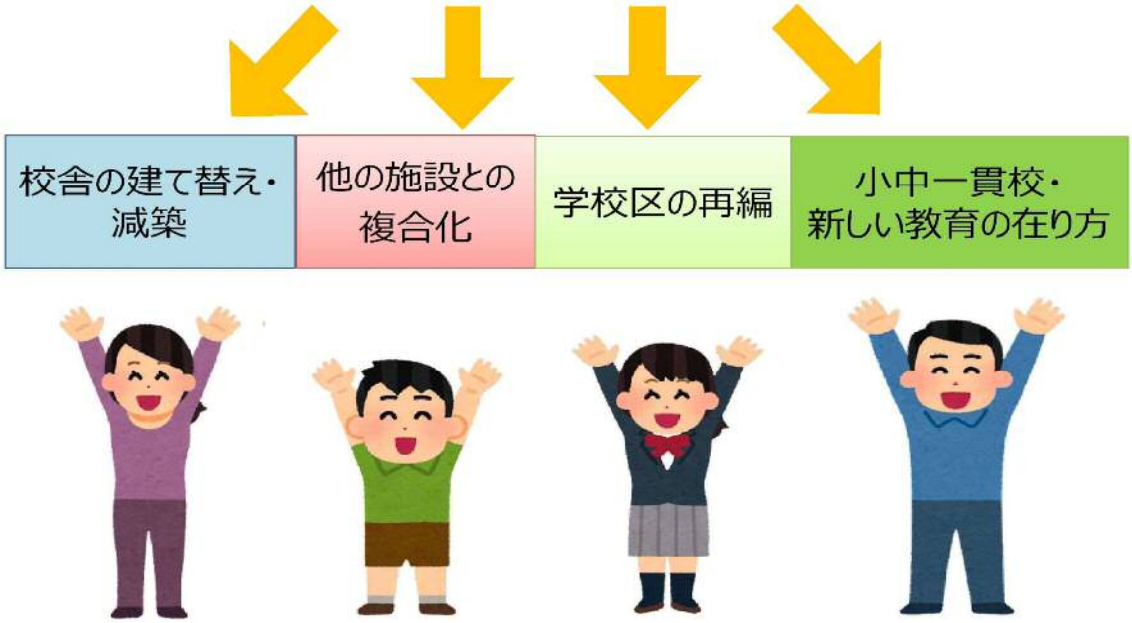
プラン②　他の施設との複合化を考えたい

プラン③　学校区を再編し、境界線を見直したい

プラン④　小中一貫校など、教育の在り方を考えたい

▶プラン②～プラン④なら、モデル校に向けた検討を進めましょう。

どのプランを目指していくのか！



次のページからは検討協議会の立ち上げについてお示しします。

第2章　検討協議会設立とモデル校応募

● 地域で検討協議していく流れ　　※あくまで一例です。

地域のみなさんで考えるなら、検討協議会を設立しませんか。

	地域の取り組み	市の動き
Step１ 機運 づくり	★みんなで学ぶ 情報共有と意見交換 新たな人材の発掘	★各種情報の提供 Webで各校・地域 の個別情報
Step２ 立ち上げ 準備	★準備会議の開催 メンバー選考 活動スケジュール ★検討協議会の姿の検討 組織構成の検討	★令和6年2月 基本方針(案)を公表 パブリックコメント ★令和６年３月 基本方針策定
Step３ 協議会 の設立	★組織の立ち上げ・運営 学校と地域の状況把握 課題の発見 ありたい姿をイメージ アイデアの選択 解決策の検討	★令和６年度初め モデル校募集開始
Step４ 合意形成	★合意形成向けた協議 モデル校プラン（方針） のとりまとめ	★令和６年夏頃 モデル校発表

Step1　地域の機運づくり

（1）みんなで学ぼう

▶地域内での情報共有と意見交換

学校の状況について理解を深めるとともに、意見交換を通じて、課題や地域の関わり方、新しい取り組みへの可能性などについて話し合いましょう。

▶新たな人材の発掘

できるだけ多くの人に関わってもらい、いっしょに運営する人材を見つけましょう。地域にはいろいろな特技やアイデアを持った人がいるはずです。

人材の情報収集

学校のことは校長はじめ関係者と意見交換できますが、地域にはいろいろな事業に携わっている人がいます。町会長協議会、地域づくり協議会、児童育成連絡協議会、学校運営協議会、児童クラブ、PTAや公民館活動などさまざまです。

学校や地域の活動に携わっている「プレーヤー」はどんな人がいるのか「人材の棚卸し」をしてみるのも有効ではないでしょうか。

Step２　立ち上げ準備

（１）準備会議の開催

▶意見交換を通じて、検討協議会の設立に向けて地域内の意思統一が図れたら準備会議を開催し、具体的な話し合いを進めていきます。

▶準備会議の構成団体とメンバーの選考

準備会議は地域内の各種団体や住民有志の参加を募りましょう。

メンバーの選考方法は地域内の各種団体等への配慮が必要です。

地域内で活動している様々な団体、住民の代表者や若者、高齢者など、できるだけ幅広い立場で、自由に意見が出し合えるようなメンバーを選びましょう。

▶活動スケジュール

今後の活動を進めるにあたり、「何を」「いつごろ」決定するのかという活動スケジュールの案をつくります。

（２）検討協議会の姿を検討しましょう

▶検討協議会の設立に向けて、組織の名称や構成、役職等を検討します。

学校施設の整備は長い年月を必要とします。学校や地域を取り巻く環境が変化するなかでも、継続して検討がなされるようにしましょう。

【市の動き】

▶令和6年2月に「シン学校プロジェクト基本方針（案）」を作成し、みなさんからの意見や質問にお答えします。

▶令和6年３月に「シン学校プロジェクト基本方針」を確定します。基本方針への質問などに引き続きお答えしていきます。

Step３　検討協議会の設立

（１）組織の立ち上げ・運営

いよいよ検討協議会の設立です。

学校、保護者及び地域の方々の意見の受け皿となるような検討協議の場となるために、状況と課題を把握しながら望ましい学校施設のプランを決めていきます。

Step
３－①

学校と地域の状況を把握しましょう

Step
３－②

学校施設の抱える課題を発見し
ありたい姿をイメージしましょう

Step
３－③

現実と理想のギャップを埋めるアイデアを選択しましょう

Step
３－④

望ましい学校施設の
プランを決定しましょう

Step３－①　学校と地域の状況を把握

●学校と地域の状況は、知っているようで案外知らないことが多くあります。
また、児童生徒の視点、保護者の視点、学校施設を利用する人の視点で見え方や捉え方は異なります。

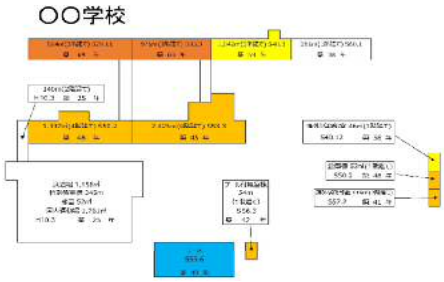
●状況を知るための手法

▶ワークショップ

ワークショップとは、みんなで自由に意見を出し合い、互いの意見を尊重しながら、意見や提案をまとめ上げていく手法です。学校の魅力や課題、地域の関わり方などを出し合い、それを大まかなグループに整理します。

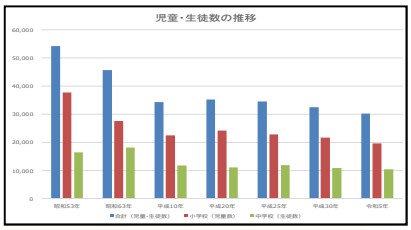
▶学校関係者との意見交換

必要とする学校施設の規模や求められる機能、児童生徒の学校生活などの情報を共有しましょう。



▶市からの情報提供

学校施設の建築年数や他の公共施設の状況、児童・生徒数の推移などの必要な情報を提供いたします。



ワークショップの手法

ワークショップの目的は、たくさんの人から多くの意見を引き出すこととその整理です。
難しく感じるかもしれませんが、うまくいけば多様な可能性が実感できます。
先入観なくアイデアを出し合いたくさんのアイデアを整理するにはＫＪ法がおすすめです。

「ＫＪ法の実施例」
①各自ふせんに意見を記入
※一枚にひとつの意見を簡潔に
②一人がふせんを模造紙に出し、意見を紹介
③似通った意見がある人はふせんを模造紙に差し出し、意見を紹介
④　②～③を繰り返す
⑤似通った意見ごとに小見出しをつける

Step３－②　課題の発見とありたい姿をイメージ

●状況を把握したら、これを分類したり、掘り下げたりと議論を深め、問題点の整理を行います。そして、目指すべき将来像を地域の想いに仕立てます。

▶どんな学校にするかを考えて　　例えば・・

Q.　将来は過大規模校となるのか過少規模校※となるのか？

Q.　保育園や公民館との複合化や共同活用はできるのか？

Q.　児童クラブが同じ敷地にあれば安心だが？

Q.　安全・安心な学校生活を送るために必要なことは？

Q.　教室や多目的スペースの使い方は？

Q.　敷地内にプールは必要なのか？

Q.　防災拠点としての機能は？

Q.　建物は何階まで建てられるのか？

Q.　学校区域はどうする？

・・・など

▶市からの情報提供

既存校舎の配置や設備、他の公共施設の利用状況などの情報を必要に応じて提供します。

▶事例紹介

他都市の先進事例を必要に応じて紹介します。

※　法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっていることに留意が必要です。
　学校規模の適正化を図るための手段としては、主として学校同士の統合が考えられますが、それ以外にも、通学区域の見直しにより大規模校の児童生徒数を減らし、小規模校の児童生徒数を増やすこと、過大規模校を複数の学校に分離すること、学校選択制を部分的に導入すること（いわゆる小規模特認校制度）によりあらかじめ指定する小規模校への通学を可能とすることなども考えられます。

Step３－③　ギャップを埋めるアイデアの選択

●目指すべき将来像を実現するためのアイデアや地域が協力・協同できることを考え、選択します。

●できたらいいなと思うこと、協力できること　　例えば・・・

▶保育園、公民館との複合化

▶学校図書館の地域開放

▶音楽室、家庭科室、多目的教室の地域活用

▶学校全体での異学年活動や協働学習の実施

▶学校（通学）区域の変更

▶学校の統合（施設一体型小中連携校・一貫校）

▶児童生徒の安全確保

▶学校施設の維持管理を地域でサポート

・・・など

Step３－④　学校施設のプランを決定

●さあ、新しい学校プランをまとめましょう

▶選択したアイデア等が課題の解決策となるかを検討します。
地域条件やデータを参考にしながら、目指すべき学校施設の規模や機能を決定していきます。

▶市からの情報提供
先進事例を必要に応じて紹介するとともに、地域の検討協議会からの要望があれば、近隣の学校間の調整を行います。

Step ４　合意形成　　～モデル校応募～

（１）モデル校プラン（方針）のとりまとめ

▶学校、PTA、地域等とプランについての合意を形成します。

（２）モデル校募集に応募

新年度からモデル校募集を開始します。

募集資料（応募の要件、応募様式、選定基準を定めたもの）を公表しますので確認して、ご応募をお願いします。

応募資料は読みやすさに配慮するなど、応募の負担をできるだけ軽減するよう努めますが、ご不明な点があればお気軽にご連絡ください。

令和6年夏頃に、市が設置する「モデル校選定委員会」への諮問・答申を受けて決定したモデル校選定結果を公表します。

第3章　先進事例紹介

先進事例①

小中一貫校

瀬戸市立にじの丘学園　**愛知県瀬戸市**

用途	小学校、中学校、地域図書館
階数	地上2階、地下1階
竣工	令和2年4月
児童生徒数 (令和4年5月1日現在)	小学校 28学級：708人 中学校 12学級：306人

中心市街地の少子化問題を解決するため、
小学校5校と中学校2校を統合し、
新たな小中一貫校を設立した。

先進事例②

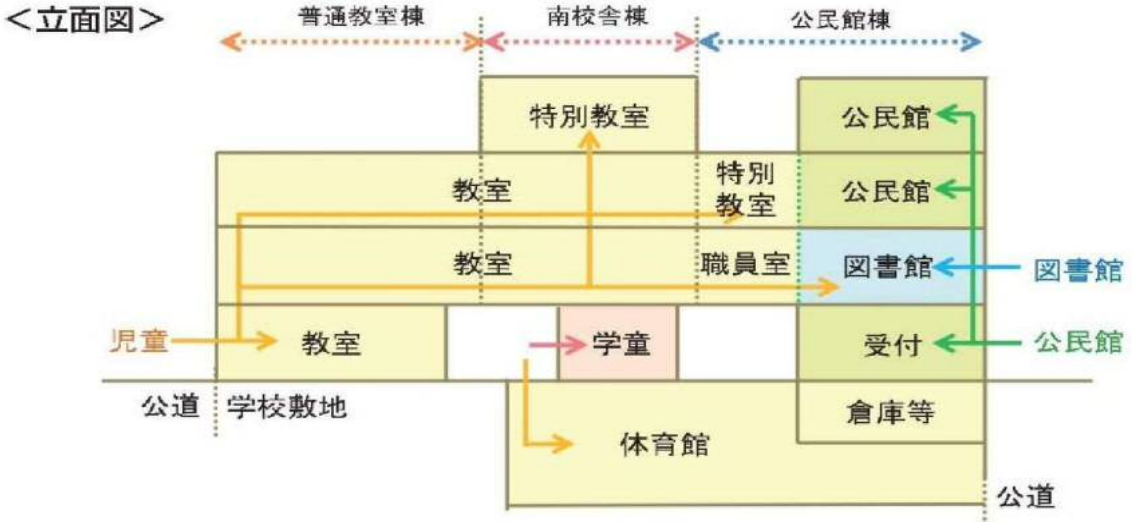
複合施設

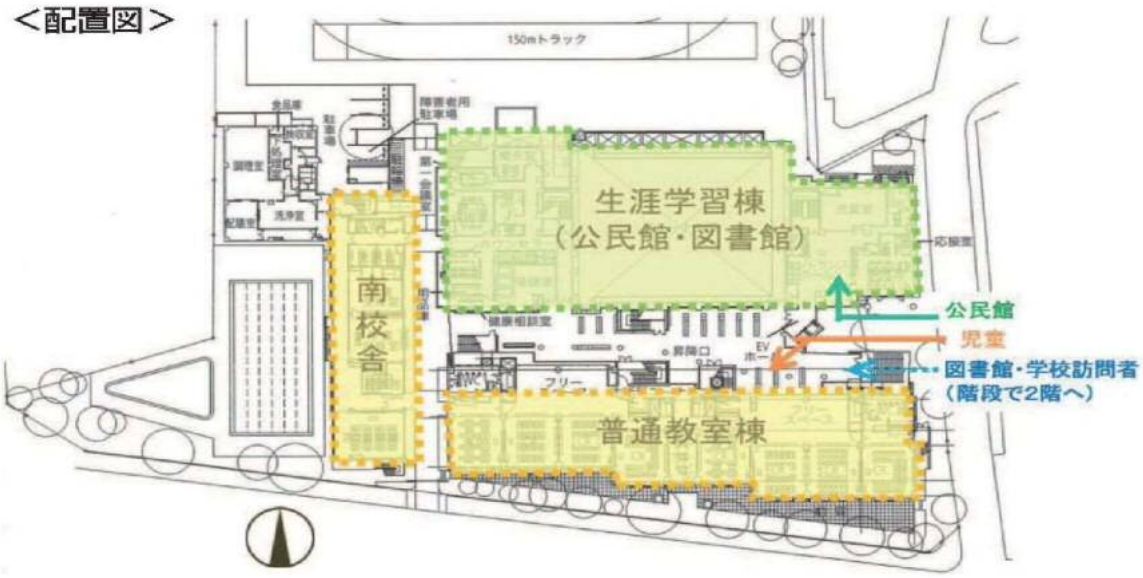
志木（しき）小学校　　埼玉県志木市

用途	小学校、公民館、図書館、学童保育
階数	地上4階、地下2階
開校年	平成15年
児童数	1～6年　30学級：836人（令和3年度）

普通教室棟と生涯学習棟をつなぐ
2階テラスとブリッジ

小学校と 近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、複合施設を整備した。





先進事例③

複合施設

東京都品川区

品川区立第一日野小学校　5つの教育・文化施設を一体的に整備

■学校規模／17学級527名
（特別支援学級／4学級26名）
■複合施設（床面積）／
小学校（7,830㎡）
幼保一体施設（1,475㎡）
図書館（1,181㎡）
文化センター（4,508㎡）
教育センター（1,454㎡）
■整備時期／平成3年
■構造／RC造一部S造 地上6階 塔屋1階

・図書館、音楽ホール、プラネタリウム等、多様な施設との複合化
～多世代が集う地域の学習・文化活動の拠点
・連携した運営により、積極的な施設の有効活用・人材交流を実施

施設整備の背景

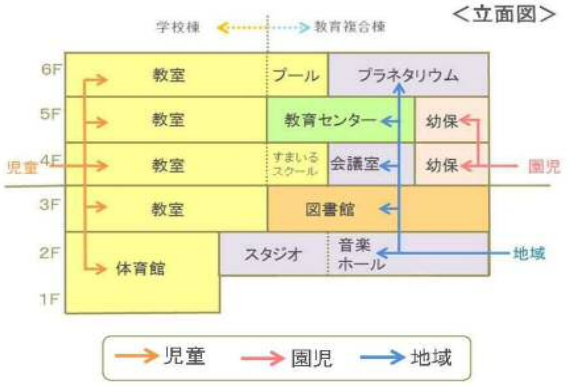
・改築前は、現在の敷地に中学校・教育総合会館（図書館・教育センター）、文化センターがあり、その隣地に第一日野小学校及び幼稚園があった。
・中学校の移転に伴い、跡地に小学校を改築。既存の教育総合会館を改修・増築し、幼保一体施設も同時に整備した。

小学校の図書室に設けられた幼児用の読書スペース

施設の配置・動線

・各施設は明確に区分している。（児童・園児・地域の動線は交わらない。）
・敷地の高低差を活かし、校舎の高さを抑えるとともに、各施設を利用しやすく配置している。

<立面図>



<配置図>

相互利用・交流活動

・小学校の校庭や体育館を幼保一体施設でも使用
・幼児用のプールや読書スペースを、小学校内に設置
・小学校の余裕教室を、保育園の一時保育やPTA活動に使用

→ **・小学校の設備とスペースを幼児教育にも活用**
・小学校・幼稚園・保育園における教育に連続性を持たせる

・学校の図書室で、隣接する区立図書館の資料も貸出しが可能
・設備の調った音楽ホールを、音楽発表会等で使用（使用料無料）
・授業や親子教室等でプラネタリウムを活用

→ **学校教育にも公共施設を有効的に活用**

小学校と幼保一体施設が共有する校庭

小学校プールの脇の幼児用プール

防犯対策

・施設を明確に区分している。
・学校の図書室と区立図書館は、一体的な利用も可能であるが、安全性を確保する観点から、現状として別々に施設管理している。

地域の利用者の出入口となる
教育複合棟のエントランス

学校の図書室と区立図書館は
中庭を挟んで向かい合っている

→ **地域の実情に応じた対応により、児童の安全を確保**

施設間の連携

各施設の担当者間で毎月合同の打合せを実施。各施設の近況や利用計画、防犯対策等について密に連携を取っている。

→ **運営面の工夫により、施設間の交流・相互利用を促進**

地域の拠点

・小学校、幼保一体施設、教育センターといった地域の教育施設と、音楽ホール・プラネタリウム・スタジオ等、地域の文化施設が集約された、地域の教育・文化活動の拠点施設となっている。

→ **多様な施設に囲まれていることで、日常的に学習や文化に対する関心・活動機会が高まる**

設備の調った音楽ホールでは
日々様々な催しが行われている

授業等でも活用できる
文化センターのプラネタリウム

学校教育に関する相談ができる
教育相談センター

先進事例④

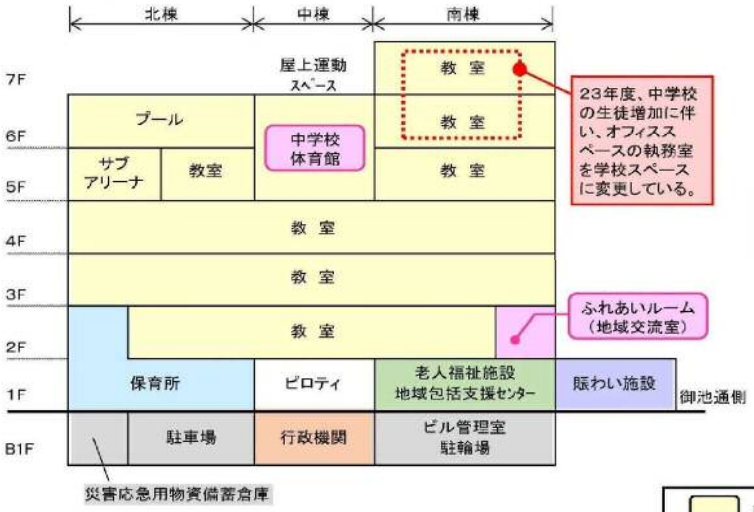
複合施設

京都御池（おいけ）中学校　京都府京都市

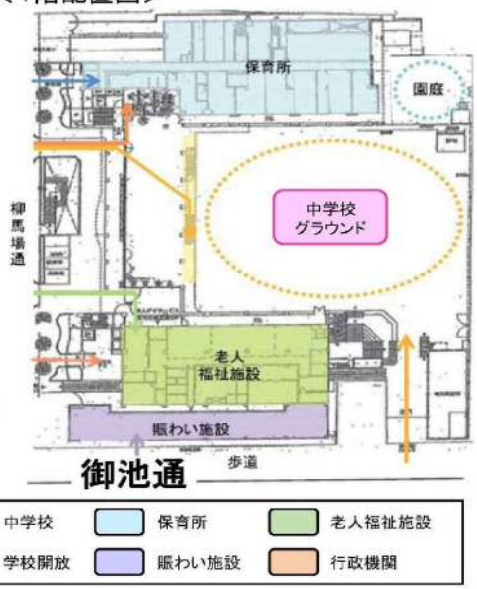
＜施設概要＞
2階～7階　御池中学校
1階～2階　保育所
1階　　老人福祉施設（デイサービスセンター）、賑わい施設（レストラン、カフェ他）

地上7階+地下1階

＜立面図＞



＜1階配置図＞



市民主導の学校統合：3中学校の統合
→地元・保護者の論議・検討を経て市に提出された**「統合要望書」**に基づいて創設

民間事業者との協働：ＰＦＩ手法の導入
・行政には経験のない複合施設の設計・建設
・学校では困難な複合ビルの維持管理
・市の財政支出の縮減・平準化

小学校6年生と7・8・9年生（＝中学生）がともに学ぶ小中一貫校
・児童・生徒数　1,009人（令和4年度）
　中学生　667人、小学校6年生　342人
・小学校1～5年生は、校区の御所南小学校、高倉小学校で学ぶ「施設分離型5・4制」

インターネット上の一宮市のWebページに、シン学校プロジェクトのページがあり、これまでの情報や、それぞれの学校の資料がまとめてありますので、ご覧ください。

「一宮市　シン学校プロジェクト」で検索してください。

また、各小中学校のWebページからも参照できるボタン（バナー）があります。

今回のキックオフミーティングの映像も動画配信できるようにしますので、お越しになれなかった皆さんに是非ご紹介ください。

シン学校プロジェクト 検討協議 活動ハンドブック

2023年11月

一宮市教育委員会 教育部 総務課

〒491－8501　愛知県一宮市本町2丁目5番6号

電話：0586－85－7071（直通）

電子メール：k-somu@city.ichinomiya.lg.jp

※ご相談やご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。